

香川県保険医協会・歯科技工士会コラボ 生涯研修のご案内

平賀敏人先生

平賀歯科医院院長
(大阪府開業)



略歴

平成元年 大阪大学歯学部卒業
平成元年～4年 大阪大学歯学部
口腔治療科在籍
平成9年 父の死去により平賀
歯科医院院長となり現在に至る。
平成10年 大阪大学博士(歯
学) 授与
平成14年より 大阪大学歯学
部非常勤講師
平成15年より 新大阪歯科衛
生士専門学校講師

模型診断と総義歯の吸着について

～総義歯がわかれば歯が見えてくる～

日常臨床においてフルブリッジや多数歯のインプラント・総義歯の場合は新たな咬合関係を与える必要があります。その際にきっちりとした基準点がなければ再現性のない行き当たりばったりの治療になってしまいます。そのため私はフルブリッジ、インプラント、フルデンチャー、顎関節症・矯正などの治療前には必ず模型を診断してから治療するようにしています。

また総義歯で吸着を得るためには解剖学を学び、正しい印象・正しい咬合採得・正しい咬合調整を行うことが必要です。今回は、模型診断の臨床応用と、総義歯特に下顎総義歯の吸着の為の解剖学的基準点と義歯作製のステップについてお話をさせていただきたいと思っております。

貝原紘一先生

(有)田工房代表



略歴

1969年 日本医学技術専門学
校歯科技工科卒業
1992年 市波治人先生に師事
西日本歯科研究会主事に就任
「眼で見る下顎位症候群」3
年6ヶ月ドクターコースを開講
のべ300人の受講生を輩出
1995年 有限会社 田工房設立
現在に至る

模型を読むと言うこと

模型を読むと言う事は単に補綴物を作る為に行うのではありません。有歯顎の場合は正中口蓋縫線やレトロモラーパッドなどの基準点から本来有るべき歯の位置を診断し、今の患者さんの上下の歯の状態や顎のずれなどを診断します。また無歯顎の場合は配列する歯の位置や咬合高径なども推測していくことが出来ます。

今回、模型を診断する上で必要な基準点や診断方法・実際の患者さんへの応用についてお話しさせていただきたいと思っております。

記

- 日時 2015年6月28日(日) 9:30～15:30
- 会場 ホテルマリンプレスさぬき(高松市福岡町2-3-4 無料駐車場あり)
- 参加費 無料
- 定員 60名(先着順)

※お弁当¥1,000(お茶付)の必要な方は申し込みハガキにてお願い致します。